


グループホーム はまの里

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		運営理念は掲げている。職員に周知徹底する為、毎朝の申し送り時、理念の唱和をおこなっている。「心こそ大切なれ」をモットーに日々の業務に取り組んでいる。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念の唱和により職員に意識付けを行っている。月1回のミーティング時、改善項目等検討を全員で行っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		事業所のリビングに理念を掲げ、理解して頂けるようにしている。運営推進会議時、区長さん等出席者に取組みを伝え地域に浸透するように図っている。 運営推進会議時に、施設の活動状況を報告していく地域の方に伝達出来るように連携を図っていく。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近隣の方には、自ら挨拶が出来るように心がけている。お花や野菜など届けて頂くことがある。 更に近隣の方と馴染みの関係となれるように日々の挨拶や対応を職員全員が周知していく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の運動会参加、子ども会からの行事の案内等地域との交流は深くなっている。 地域との交流が更に深まるように、区長さん等を通じて継続できるように取り組む。

グループホーム はまの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で情報の交換を行っている。地域の高齢者が遊びに来て頂けるように声かけを御願している。		情報交換を行い、開かれた施設になるように取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に関しては一部の職員で行ったが、ミーティング時自己評価、外部評価に関して伝達を行い改善に向けて全員で取り組んでいる。		改善計画の中で介護の質の向上を図るように取組みを行う。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回開催している。地域の方や行政の方との意見交換、情報交換を行いサービスの質の向上につながるように努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレット、事業所便り等を持参したり電話等で、現況報告や相談を行い、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		サービスの質の向上の為、更に連携を図ることが出来るように連絡を密に行う努力をする。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については、管理者等が研修を受け、入居時家族や本人に説明を行っている。利用者に対しては社会福祉協議会と連携を図っている。制度に対しては、勉強会等により職員に伝達している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けて、伝達講習を行っている。ミーティング時、意見交換を行い虐待について周知し介護に反映させている。		

グループホーム はまの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分に理解して頂けるように、時間をかけて説明を行っている。疑問や希望等尋ねながら話を進めている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	月に1回介護相談員の訪問がある。利用者と親しく会話された中から質問やご意見を頂き、運営に反映させている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、請求証送付時に個々に応じた内容の手紙で状況をお知らせしている。金銭管理に関しては出納帳のコピーに領収証添付し郵送している。おおむね2ヶ月に1回事業所便りを発行しお渡ししている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱を設置し、玄関に外部相談窓口を掲示して、入居時に説明している。家族来訪時に意見や不満等聴衆する様に努めている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ミーティングや個別の提案等により、職員の意見や提案を聞いている。それに対し全体で協議し運営に反映させるように対応している。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者・家族の状況により介護支援専門員、看護師は勤務時間の調整を行っている。レクリエーション等行なう時は、職員の協力により増員し、安全確保に努めている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	勤務時間の調整を行い、離職を押さえる努力は行っている。異動や退職の場合は、利用者に説明をしている。入職者については、なじみの関係になるまでは、管理者や上司がサポートを行っている。		

グループホーム はまの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員採用は法人母体が行っている。性別、年齢等を理由に採用対象から外さないようにしている。職員の個性に応じた分野を生かすような配置を行っている。誰もが自信を持って働けるような環境作りをしている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>外部の研修には参加している。正職、準職問わず研修には参加している。内部の伝達研修も行っている。</p>		<p>機会あるごとに、職員の外部研修を続ける。研修後の伝達研修を勉強会で行っていく。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日常的に学ぶ事や資格習得を推進している。ミーティングや勉強会を毎月行ない職場内で知識の研鑽を行っている。</p>		<p>職員が積極的に研修に参加できるように、管理者はシフト管理や研修内容の把握をし参加出来る体制を整えたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>久留米市長寿介護課、久留米市西包括支援センターやグループホーム協会等からの声かけにより研修会参加する事で交流が多くなった。</p>		<p>勉強会や活動を通じてサービスの質の向上を図れるように取り組みたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個々の職員の話聞き、ストレスやその背景を理解し問題解決が出来るように助言等行うようにしている。ストレス解消となるイベントの主催。もちつき、カラオケ、バーベキュー、忘年会等。</p>		

グループホーム はまの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況を把握し、個々に対し助言、相談に応じている。資格習得の希望を確認し、向上心をもてるようにシフト編成をおこなっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人自身及び家族から話を聞き何を望まれるか把握するようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が一番困っている事は何か、望まれる事は何か等、十分に把握し信頼関係を築く事が出来るように取り組んでいる。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に対し、できる限りの対応は行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人様、ご家族様が希望された時は体験入所ができる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一つのテーブルを中心に食事をしたり、絵を描いたり歌を歌ったり、会話を楽しんだり、洗濯物を畳んだりと一緒に過ごしています。学ぶ事も多く馴染みの関係を築いている。		

グループホーム はまの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時は、家族の方へ情報提供を行います。又、家族に要望を尋ね介護に反映させています。本人が家族に自分がしてほしい事を話される事が、家族から本人が希望しているのでお願いしますと依頼されます。情報の共有をする事で介護の質の向上に繋がります。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は自室で過ごせるように配慮している。家族の面会が少ない方については電話や手紙で生活状況を等をお知らせしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方が親しく訪問していただけるような配慮や連絡は行っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングで過ごす時は、1人1人が会話の輪の中に入ることが出来るような声かけを行っている。自室で過ごす方にも、声かけを行う。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院され、退院後の生活に不安を持つ事がないように、再入所を希望されれば支援を行っている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望どおりにできない事もあり、代替を行うときには説明を行っている。物忘れや思いこみもあり難しい面がある。		

グループホーム はまの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人様やご家族様、ケアマネージャー等からの情報収集を行っている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活のリズムを把握し、その人が希望する援助が出来るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望を尋ねている。主治医の意見や指導をプランに反映させ、統一した介護が出来るように取り組んでいる。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、変更の必要が生じた場合家族等と話し合いを行い、状況に応じたケアプランを作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に日々の実践状況を記録している。情報収集やミーティング等によりプランの見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	在宅療養支援診療所、協力医等の診療が受けることが出来るように支援を行っている。		

グループホーム はまの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方との交流は出来るように地域の役員さんとの連携を図るように取り組んでいる。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居を希望される際、他のケアマネジャーと連携を図り入居の段取りを取っている。また、訪問理美容や訪問歯科診療の利用が出来るように支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、包括支援センターと協働し支援を行う事がある。運営推進会議を通じて情報の共有化を図っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1名を除いて在宅療養支援診療所から医師の往診による診察が行われている。1名に関してはかかりつけ医への受診介助を行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症が進行したと思われる時は、家族に説明を行い専門医への受診をお願いしている。定期受診の際は、日常状態を報告し医師との連携が図れるように支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護支援専門員と看護師の兼務。毎日の健康チェックを行ない異常の早期発見、健康状態の把握に努めている。		

グループホーム はまの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	医療機関との連携を図り、入退院が円滑になるように連携を図っている。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化した場合や終末期のあり方について早い時期から家族等と話し合いを行っている。看取り介護を希望される場合は同意書を取り交わして医師、家族、施設間で方針を共有している。		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	施設でできる事、できない事を見極め主治医との連携を図っている。住み慣れた馴染みの場所で最後まで過ごせるように看取り介護に取り組んでいる。		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	住み替えによるダメージが極力少ないように情報提供を行っている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	1人1人を尊重した対応を行い、個人情報保護にも十分な配慮をしている。		

グループホーム はまの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で利用者様と過ごす時間を通じて希望や関心事を見極め個々に合わせた支援を行っている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースにあわせた支援が出来るように配慮している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1回の訪問理美容を利用できる。家族の了解を得た上で本人様の希望されるサービスが提供出来るように支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食事を作る事は困難になっている。野菜を揃えたりできることを手伝って頂いている。メニューや盛り付けにも配慮し、食事に楽しみが持てるようにしている。同じテーブルで同じものを一緒に頂いている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	できる範囲で個々への提供は行っている。嗜好品に関しては個人の預かり金で購入し提供する事もある。週2回は手作りおやつを提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行ない、声かけ、誘導を行なっている。昼間は、トイレで排泄できるようにトイレ誘導を行なっている。		

グループホーム はまの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1・2階隔日入浴介助を行っている。入浴拒否される方や入浴出来ない方には清拭等で対応している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間はなるべく離床を促しているが、昼食後、昼寝を希望される方には休息出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる事を無理強いする事無く、手伝って頂いている。気晴らしが出来るように、レクリエーションや行事に取り組んでいる		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が小額のお金を持つ事はあるが使う事はない。基本的な金銭管理は施設が行い、希望される時は買物で対応している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良い日、施設の周囲の散歩を行っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	介護度が高くなり、外出は困難になっているが、地域の行事や可能な限り支援できるように取り組んでいる。		

グループホーム はまの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話してほしい、家族から本人に伝えてほしいという場合には適切に取り次ぎ支援を行っている。たまにはあるが、手紙のやり取りの支援を行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はしないで、いつでも面会に来て頂けるようにしている。面会が少ない方については電話や手紙で生活状況をお知らせしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則身体拘束は行わない方向で介護に取り組んでいる。勉強会等で周知徹底を行なっている。緊急止む得ない場合は家族に方法や期間、時間等説明を行い文書で同意を頂いている。必要なくなった場合は直ちに解除している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の鍵は日中は施錠は行っていない。離設の可能性がある方が居られる時は、原則見守り強化で対応するがやむ得ない場合は時間、期間を決めて施錠する事がある。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通じ見守り・介助を行い安全に配慮している。昼間、自室で休まれている時も随時、安否確認を行っている。夜間は1時間毎に巡視を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じた対応を行っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各マニュアルを作成し、ミーティングや勉強会で周知できるように取り組んでいる。個々に対しては随時カンファランス等により対応を検討している。		

グループホーム はまの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、随時周知を図っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を行っている。運営推進会議の中で、地域の方に協力いただけるように働きかけを行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	随時、家族と施設側で対応策を検討するように取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化については、随時看護師に報告されている。看護師は状態を把握し救急車、往診等の対応を行っている。介護職員には、注意事項、水分出納、バイタル等観察事項の指示を随時行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にし保管管理を行っている。誤薬がないように服薬前に3回の確認を行っている。薬の内容が変わった時は随時伝達周知している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックを行ない便通状態を把握している。食事量、水分摂取量、運動量等把握している。必要時、緩下剤や座薬等でコントロールを行う。		

グループホーム はまの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを行っている。1人で出来ない方には介助で口腔ケアを行なっている。義歯洗浄及び嗽介助。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の形態や量、きざみ食、トロミ食、ミキサー食等個々の状態に応じた食事が提供出来るように考慮している。1日の水分摂取量は把握している。食事摂取は困難な場合は、高カロリーの代替食を提供する事もある。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。手洗い励行とラビネット消毒の徹底。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日購入しその日で使い切るようにしている。まな板や布巾は夜勤者がハイター消毒している。包丁、調理鉞はアルコールで除菌して使用している。冷蔵庫は随時、点検、ラビネット消毒を行っている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には手作りの表札があります。花壇や周囲には1年中花を楽しむ事が出来るように入居者や職員が植え替えをしています。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や洗面所、トイレ等花瓶に花やグリーンを生けて季節感を出しています。		

グループホーム はまの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやテレビがあり、思い思いの時間を好きなように過ごしていただけるように配置しています。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の好みものを持ってきていただき自由にレイアウトして頂いています。安心して、安全に過ごせるように本人様と相談しながら配置を考えます。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替えや室温調節には十分配慮している。空調運転マニュアルにより管理している。個々の状態に応じて居室の空調管理を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっている。移動時の安全が確保できるように随所に手すりが設置されている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の居室の入り口に表札を掲げている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭で鶏骨鶏を飼っている。菜園があり折々の野菜を栽培している。		

グループホーム はまの里

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム はまの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

少しでも低料金で、地域住民の皆様にご利用して頂き、満足いく介護施設サービスの提供を目指しています。看取り介護に取組み始めて1年が経過致しました。最後まで馴染みの場所、馴染みの人たちと・・・職員と家族に見守られてその時を迎えたい、迎えさせてあげたいと介護に取り組んでいます。在宅療養支援診療所からの医師の往診で医療面でも安心した療養生活を継続できます。